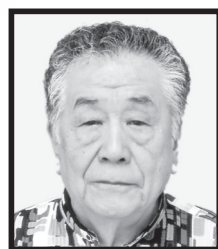


東書藝

令和3年12月

<http://www.toshogei.jp/>

追悼 副会長 久野北崖先生



令和三年七月十七日、平成七年より東書藝副理事長、平成二十五年より副会長を歴任されてこられた久野北崖先生が、八十三年の生涯を閉じられた。二年前からの闘病と伺ったが、四月の六十八回東書藝展でもそのお姿、お声を目の当たりにしたばかりだったので信じられない思い。ここに東書藝風岡五城会長、安藤清舟副会長、岩田冬崖常任参事・好日社代表、木村大澤理事長の四先生からの追悼の言葉を掲載し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

久野北崖先生を偲んで

会長 風岡五城

確か六月二十六日の事だった。久野先生からお電話があった。二週間ほど入院することになって「今日の書展」の作品が書けなくなった。よろしく頼むという内容だった。話しぶりは普段通りで深刻な様子ではないように思えた。

それから三週間余りたつて奥様から突然の訃報。最後の電話となったあの時のお声が耳の奥で聞こえた。こんなにもあつけないお別れになるうとは。残念というより実に悔しい。久野先生とはもちろん旧知の

仲ではあったが、私の理事長時代に副理事長として大いに助けていただいたことで、一層親交が深まった。「名匠狂言会」や「愛知万博」への協賛問題で、中日新聞社と交渉するときなど、いつも一緒に動いて何かと助言をいただいていた。書友であると同時に酒の友でもあったので、居酒屋で杯交わしながら話し込んだこともしばしばあった。

いつも東書藝のことを想っていてくださったと思う。今年の東書藝展の折には二年後に迎える七十周年記念事業について心配しておられた。こんな話をするのは久野先生だけでは

先生は梶田東崖先生の子飼いの弟子で、師匠譲りの隸書を得意とされた。壮年期の第四回読売書展の入選作「寒山詩」(三尺×八尺×二)は今も記憶に残る。近ごろでは「名匠狂言会」の題字は傑作だ。前会長の豆子甲水之先生もしきりと感心しておられた。

東書藝の七十周年を共に迎えたかった。合掌。

久野北崖先生を偲ぶ

副会長 安藤清舟

久野北崖先生が七月十七日、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

いつ頃だったか、お元気だった先生が体調を崩されて入院、手術を受けられた時がありました。風岡先生とお見舞いに伺う日のご退院の日と重なり、その機会を逃していました。

三月の東書藝展審査の日、そして四月の本展・授賞式にもご出席され、先生はいつもと変わらぬ様子でした。この日の夕刻、風岡先生から打合せしておきたい事があるので、県美術館から場所を移して久野先生、水谷先生と私の四人で総会の件、今後の事業等々意見交換でき、とても有意義な時間を過ごしました。会議後名古屋駅で散会してそれぞれの帰路に着きました。

その時にはこの日が久野先生と私たちのお別れになるうとは想像もできませんでした。

七月十三日に名古屋市民ギャラリー栄で開催の「今日の書」代表作家展の初日。会場当番で岩田冬崖先生とご一緒になり、久野先生から電話で「体調が優れず『心象展』の作品が書けないから不出品に、これから入院する」とだけ伝えて詳しくは語

らず電話を切られた、とお話下さいました。私はその時先生のご容態がかなり悪かったとお察ししていましたが、前のご入院時のようにきつとご回復されると信じていました。しかし願

いかなわずこの日の四日後に他界された、との訃報に接したのはいづいぶん後のことでした。久野先生は学生の頃から東書藝に参画され、ご活躍されました。これからも副会長のお立場で風岡先生の良きパートナーとしてご一緒に尽力下さる事と思っています。先生の書作品は揺るぎない堂々と引かれた線条でしたためられた作風が、温厚なお人柄を現すかの様で私の印象に残っています。

先生を偲びつつ、私も残る人生を書と共に歩んでまいります。

合掌

北崖さん安らかに

常任参事・好日社代表

岩田冬崖

突然の訃報に接したのは七月二十六日の東書藝会報部の電話

の折でした。弊会の心象展も終盤に近い七月十七日に急逝された由。好日社会員一同只々、驚きと悲しみが込みあがるばかりでございました。先ず以って謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

北崖さんは幼少の頃より書に親しまれ、その情熱は並々ならぬものと見聞。小生が学生の頃には家業に精を出す傍ら、梶田東崖先生の薫陶を得、隸書体風の作品を幾多の書展に発表されてこられました。

手習い教室は朝日新聞社の書道クラブに席を置かれ、好日社運営を側面的に支援され会員数の増強、ひいては東書藝展への出品増等意欲的に手腕を発揮。今日の好日社の土台造りにご苦勞いただいたことは筆舌に尽くせないほどの感謝の念に堪えません。

二〇〇九年から四年間は向井遊香さんの後を受け継いで好日社代表となり、後進の指導にご尽力願ひそして東書藝の役職でも存分に活躍されました。

永い間本当にご苦勞様でした。北崖さんの偉業に敬意を表

わすと共に、在りし日を偲びつつ好日社中一同更に精進するものです。どうか北崖さん、いつまでも好日社を見守ってください。

合掌

久野北崖先生を悼む

理事長 木村大澤

久野北崖先生が逝去されました。東書藝展の授賞式の日がお目にかかる最後になってしまい、もっとお話しできていればと今は残念な気持ちで一杯です。謹んでここに先生の思い出の一端を記させていただきます。

東書藝のスローガンである「自由かつ大胆なる創作」を、まさにそのまま体现された作家のおひとりでした。重厚かつ迫力みなぎり、豊潤で筆勢活きる書風は、他者を寄せ付けない独自の世界観をお持ちだった証拠でしょう。筋骨豊かに書かれた隸楷書は、泰然自若たるものでした。先生の書かれた「名匠狂言会」のタイトルは、先生の間そのもののように感じます。

晩年は、東書藝の副会長として長年重責を果たされ、東書藝の顔として存在感のある先生でした。常に東書藝の今とこの先を見据えておられ、快く相談に乗っていただけの方でした。久野先生が副会長になられたと同時に、私は理事長の大役を仰せつかりました。その後約十年間、様々ご指導を仰ぎながら今日までやってこられました。久野先生のご意見やご教示は、やはり大きな力となり励ましになりました。書展関連のみならず、特に記念行事などでは大変お世話になりました。中国旅行も懐かしい一ページです。

中部圏書芸作家協議会において長期にわたって事務局長を務められ、「今日の書展」が今に至るまで発展してこられたのは、久野先生のご尽力の賜物といっても過言ではありません。かつては六団体だった中部圏を、垣根を超えてしっかりとめられたご手腕は、東書藝関係者のみならず他の団体の方々も認めると思います。

(3) また先生は、私の所属する宏道書会の方々との親交も深く、

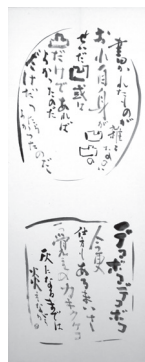
事あるごとに一緒に過ごさせていただきました。お酒の席では気さくにお話しできる先生で、たくさん楽しい時間も思い出されます。カラオケの美声は万人の認めるところ。石原裕次郎張りの洪いお声にどれだけの人が酔いしれたことか、マイク持つお姿が目につかびます。

先生とのやり取りはLINEが多く、お亡くなりになる直前まで「今日の書代表作家展」の打ち合わせをさせていただいておりました。メールのみならず、重要なことは電話で直接お話しできたこと多々あり、今となってはすべていい思い出です。普段は落ち着いたお話しぶりですが、意気高揚される事もあります。叱咤激励やご指導にいろいろ勉強させていただきまし

た。思い出されること、枚挙にいとまがありませんが、生前のご厚誼に心より感謝の言葉を申し上げたく存じます。先生のご遺徳を偲び、謹んでお悔やみ申し上げます。どうか今後の東書藝を見守りください。ありがとうございます。合掌。

第37回 清和会書展

西尾邑城常任参事代表の第37回清和会書展は、八月十七日(二十二日)、栄サンシティギャラリーで開催された。十名の複数出品含め二十一点。邑城先生は「一期一会」など三点。



西尾 邑城



小蕙遺墨展

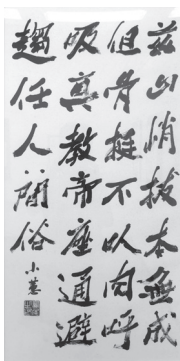
そして四月十七日に亡くなられた奥様の元院人、小蕙先生の遺作五点が飾られた。邑城先生が書かれた「小蕙遺墨展」の文字に心打たれる。

もうお辛い時の作と伺った「生きる」は特に感動的だった。会員作品も選文・表現が多彩で大いに楽しめた。

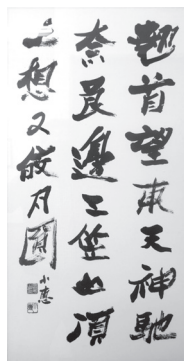
邑城先生のご健康と益々のご活躍をお祈りします。



「生きる」



「茲山拔本無成」



「望郷の歌」

第二十四回 東書藝選抜小品展

九月十四日～十九日、栄サンシティギャラリーで開催。六十八回東書藝展で、幹部による「私の選んだこの作品」に選ばれた院人作品三十二点の展示。東書藝の中核にある実力作家の力作は流石に見応え十分。紙面の許す限り紹介します。

伊藤美どり「十五夜や」

料紙上を美しく流れる温かみある線条が、句意の弾む童心を丁寧に表現した。井上清道「けふこえて」シンブルな題材を朴訥な雰囲気であらわして取りがたい。賀田野春汀「山静日長」切れのある線質で絵画的な楽しさが魅力。小島芳泉「利行は一法なり」漢字かな交じりの作品だが、篆書体とかなの構成が斬新だ。澤田花僊「桃李成蹊」品格高い四文字が額から浮き立っていて印象深い。服部草心「清平調詞」李白の七言絶句を華麗な行草体で。墨の潤渇、行の響きあいも抜かりない。堀田清苑「五言絶句」真紅の用紙に美しく配字された篆書作。一分の隙なく緻密で正確だ。村

瀬月花「動」

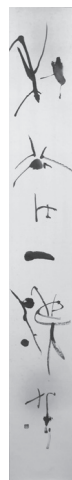
用紙が効果的で、躍動感溢れる作。山本美峰「初雁を詠んだ歌」重心を右上高くとり左下部を引き締めた構成。凛として一段と佇まいが冴える。横井青蓮「月夜出西太湖」七言絶句を印面に三字・四字で表現。題名と落款のつり合いも心地良く、全体に見事に調和した。すばらしい出来映え。この他にも快作多数。見応えの十分ある展覧だった。



村瀬月花



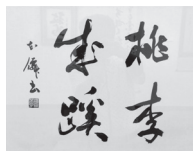
伊藤美どり



小島芳泉



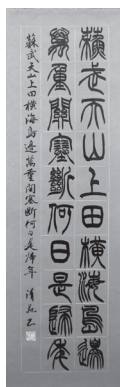
賀田野春汀



澤田花僊



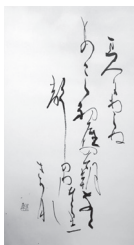
服部草心



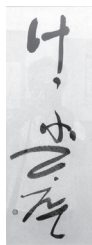
堀田清苑



横井青蓮



山本美峰

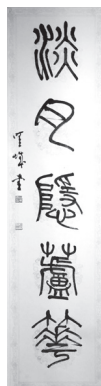


井上清道

第47回 宏道書展

第47回宏道書展が、八月

二十四日～二十九日電気文化会館ギャラリーで開催された。山本晴城東書藝副理事長率いる宏道書会・一般部百三十四名、学生部は硬筆・毛筆・色紙を合わせて四百十三名が出品。例によつて本の二十九点も楽しめる。東書藝の中核を担う集団とあつて、故山本宏城先生の遺墨が見守る中、水準の高い力作がずらりと並んだ。学生部の表彰式は今年も中止されたが、大村東書藝名誉会長の来場も賜り盛り上がった。



山本晴城



風岡五城



梶田稲州遺作展

昨年九月十日に逝去された梶田稲州先生の遺作展が十月八日～十日、名古屋市政資料館展示室で行われた。日本篆刻家協会、東海書道藝術院で幹部役員として活躍され多くの業績を残された先生の作品三〇点が二室に美しく配され、一室目入り口すぐに神谷葵水先生から稲州先生への手紙。中央には実物の印、硯など先生ゆかりの品が並んだ。三〇点中十三点が書作品。どの作品も実にすばらしく在りし日の先生のお顔やお声が浮かんでくる。歴史的な建物の会場と相まって忘れられない展覧であった。



張桐城詩



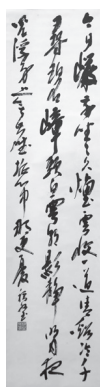
遊藝之訓



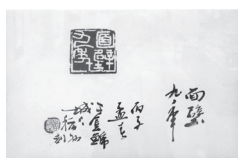
春秋多佳日



萬壽無窮



寒山詩



面壁九年



磨而不磷



豚魚之信



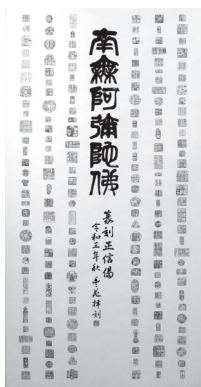
葉根譚語句



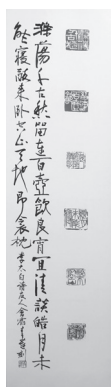
石川文山詩 富士山

第9回稲香印社展

第9回稲香印社展は十月八日～十日、梶田稲州遺作展に合わせて開催。稲州先生のあとの代表を、本会院人の横井青蓮先生が引き継がれ、遺作展から流れの隣室会場で会員作品二〇点を展示。篆刻作品に加えて漢字かな交じりの書など、新しい風も混じる。狭い印面に広い宇宙を展開する奥深い世界に魅了された。



岡田豊苑



横井青蓮

第63回游心書展

游心書道会（常任参事・松浦白碩先生代表）主催、第63回游心書展は九月十四日～二十日、愛知県美術館ギャラリーで開催。故小川南流、圭南両先生の遺墨を含め56点を展示。東書藝展の優秀作常連の錚々たるメンバーの作品群は、伝統書の素晴らしさをあらためて感じさせてくれる。代表の白碩先生も納得されたお顔だった。益々のご発展を祈念致します。



三品芳翠



松浦白碩



小島芳泉

第44回公募 梓会書道展

書道研究梓会(勝川香艸会長、

伊藤春魁理事長) 主催、第44回

梓会書道展は十月十二日～十七日、愛知県美術館ギャラリーでの開催。梓会員87点、公募作品36点と特別出

品で加藤永樵先生、故勝川香雲

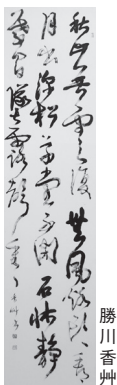
先生の二作品が展示された。会場に入ると大字

かなの額作品が

たくさん目に飛び込んでくる。

優美な散らし、美しく躍動する

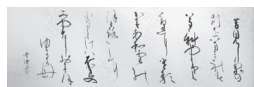
線条で表現された世界は、本当に純日本的な書美に浸ることができる。



勝川香艸



伊藤春魁



井波幸潭



TOPICS

各種報道でご存知の方も多いと思うが、文化審議会は10月15日、改正文化財保護法で新設した登録無形文化財に「書道」と「伝統的酒造り」を登録するよう文部科学省に答申した。

書道は漢字の伝来や仮名の発展とともに伝統的な書法が確立。鑑賞対象であるとともに文字を学ぶ手本として庶民の生活にも広く浸透し、歴史上の意義があり芸術性の上でも価値が高いと評価された。

日本の書家たちも書道の普及に役立てようと、ユネスコの無形文化遺産登録を目指し、2015年に日本ユネスコ登録推進協議会を発足させ、さらに21年8月には日本書道文化協会を設立するなど働きかけを加速させてきた。

(毎日新聞、日経新聞、朝日デジタルより)

今後の予定

◇第16回攻玉書会展

会期 12月25日(土)～26日(日)

会場 豊田市民文化会館

主催 A・B展示室

攻玉書会親交会(羽根田菫橋)

◇'22今日の書展

会期 4年1月12日(水)～16日(日)

会場 愛知県美術館ギャラリー

主催 中部圏書芸作家協議会

中日新聞社

祝賀会は中止

◇第57回新春東書藝代表作家展

会期 4年1月25日(火)～30日(日)

会場 名古屋電気文化会館 東ギャラリー

主催 東海書道藝術院

◇第37回景雲社「絆」書道展

会期 4年2月14日(月)～20日(日)

会場 クリエート浜松3階 ギャラリー35

主催 景雲社(勝田晃拓)

◇第12回有鄰書展

会期 4年3月9日(水)～13日(日)

会場 岡崎市美術館

主催 有鄰会(安藤餘香)

◇第21回心書会展

会期 4年3月19日(土)～20日(日)

会場 亀山市文化会館

主催 中央コミュニティセンター

心書会(安藤清舟)

◇第13回幽石書道会展

会期 4年3月25日(金)13時～29日(火)

会場 飯田創造館

主催 幽石書道会(熊谷真川)

◇東書藝院人研修会

日時 4年3月27日(日)

会場 愛知県芸術文化センター12階

アートスペース

◇第69回公募東海書道藝術院展

会期 4年4月5日(火)～10日(日)

第一会場 愛知県美術館ギャラリー

第二会場 名古屋市民ギャラリー栄8階

開場式

4年4月5日(火) 午前10時 第一会場にて

授賞式・祝賀会

4年4月5日(火)

名古屋ガーデンパレスにて

12:30受付13:00開始

主催 東海書道藝術院

中日新聞社

編集後記

◇予定はコロナ禍による急な変更もあります。第55回碩山書院一門展、第38回花墨会展の紹介は次号に。よい新年を。

令和三年十二月 第一四四号

発行 東海書道藝術院

編集 加藤松亭

堀江龍舟